

# 「2024 年度保険士認定」 審査委員会による小論文審査の総評

## 1. 初めに

2024 年度の保険士認定制度の応募者は 1 名で、茲許話題となっているフリーランスで働く人々を対象とした保険の普及の重要性に着目して、保険仲立人として普及に取り組もうということを経験とした小論文でした。多忙な業務の合間に小論文の執筆に再挑戦して頂いたことをたいへん心強く思います。また、「2023 年度保険士認定」 審査委員会による小論文審査の総評（＝応募された方々への啓蒙的なフィードバック）をよく読んでいただき、そこで指摘されたことを自分のものとして受け止めて執筆された努力が読み取れるものでした。

保険士認定制度を通して、専門的な職業に従事する人々が職業上の要請などで執筆する論文の作法に則って、保険仲立人に係るテーマについて説得的な論考を執筆するということに挑戦して自己研鑽を図っていただくというこの制度の主旨に照らして、主催者としては大変喜ばしいことでした。

審査では、提出いただいた小論文を申請ガイドで案内した観点から採点評価するとともに、小論文から読み取れる筆者の業務や業界への前向きな思いや、自己研鑽への意欲等を総合的な評価に反映させて、認定と判定しました。

以下、今般の審査委員会でのコメントの中から、認定されたご本人だけでなくこれから保険士認定を受けようとする方々にとっても自己研鑽の指針になると思われる内容の指摘をお伝えすることとします。

## 2. 指摘事項

（１）世の中で話題となっている事柄を経験として取り上げ、保険仲立人としてなすべきことは何かについて論考しようとする着眼点や発想は良かったと思います。自らの職務を通して気付いた課題や問題をテーマとすることは、小論文のオリジナリティーの起点となります。その上で、課題—分析—結論という論文の筋道を通すという形式的な要件も満たされていたと思います。

（２）一方で論理展開から結論に至る際には、考えが飛躍しないことや、データを正確に解釈することに十分に留意する必要があります。自分の論考を進めていく際に、何を引用するのかに加えて、引用する情報をどのように説得的に活用するかをよく考えることで論文に深みが出てきます。

（３）説得力を高める為に、与えられた文字数をやはり上手にフルに活用することが大切です。字数を埋めさえすればよいわけではありませんが、せつかく与えられた文字数ですからできるだけ有効に使うことを心がけてください。

(4) 保険仲立人に従事するすべての人にとっての宿題かもしれませんが、課題解決に取り組もうとする際に、代理店ではなく保険仲立人として取り組むほうが良いとするのは何故なのか？ということ、代理店ではなく保険仲立人として取り組むことにどのような意義があるのか？ということについて考えていただきたいと思います。そしてその考えを説得的に述べて頂けることを期待しています。

### 3. 最後に

今回の総評だけでなく、これまでの審査の総評（応募者のなかった 2022 年度を除き 2018 年以來、毎回公表されています）とも併せて、皆さんが今後、職業上の意見論述や小論文・論文を寄稿する際などに参考にして頂ければ幸いです。

これまでに保険士認定を受けて称号を与えられた方は全部で 25 名となりました。今後とも更に多くの方々が、自らの職業体験を通して抱いた問題意識について小論文として論述し、保険仲立人の社会的な価値を高めることに繋がる提言をしていただくことに積極的に挑戦して下さることを期待しています。

2025 年 1 月      2024 年度保険士認定審査委員会  
米山高生、大村由紀子、平賀暁、十川能行、兼子佳之

以上